

地域情報の充実に向けた県域ラジオ放送事業者と
市町村の連携に関する調査研究

報 告 書

株式会社エフエム岩手

- 報告書 目次 -

はじめに	1
地域情報の充実に向けた県域ラジオ放送事業者と市町村の連携に関する検討会	2
調査研究会・ワーキンググループの設置	4
ワーキンググループの目的	5
1. 地域情報番組の充実方策の検討	
①地域情報のうち市町村が提供することができる範囲、 市町村がラジオ放送（県域放送等）により提供することができる範囲	6
②県域ラジオ放送事業者と市町村が連携してラジオ放送向け地域情報番組を制作する体制	7
③ラジオ放送向け地域情報番組の制作に地域の住民、団体が参画することができる体制	8
③-1 地域住民ニーズ調査	9
③-2 ラジオ番組の放送内容について	10
2. よりきめ細かな災害放送の実施体制の検討	
①災害マニュアル及び放送の手順	11
②市町村との防災協定	12
③実施体制及び災害放送の要請手順	14
④災害時想定訓練	14
3. 住民アンケートの実施	15
4. 中継局放送の検証	20
5. 中継局放送の課題	21
【添付資料】	
別添①：中継局放送（くじなのだ）放送内容	
別添②：災害マニュアル及び放送の手順	
【参考資料】	
資料①：検討会議事録（第一回）	
資料②：検討会議事録（第二回）	
資料③：ワーキンググループ議事録（第一回）	
資料④：ワーキンググループ議事録（第二回）	
資料⑤：ワーキンググループ議事録（第三回）	
資料⑥：中継局放送の可能性	

【はじめに】

東日本大震災の発災後、ラジオは災害情報の提供をはじめ国民が安心・安全に生活する上で大きな役割を果たした。特に臨時災害放送局は、発災当初「給水・炊き出し等の生活救援情報」そして、復興支援情報や生活情報へとシフトし、被災者に役立ち、元気づける情報を流し続けている。臨時災害放送局からコミュニティ放送局に移行する場合もあるが、経営面で実現できない地域もある。また、コミュニティ放送局を切望するものの、資金面・運営面を鑑みると移行に踏み切れない地域もあるのが現状である。県域放送局においても送信所の防災対策、放送施設の老朽化、都市部や山間部での難聴対策、広告市場の縮小傾向等課題が山積している。

岩手県・宮城県・福島県では東日本大震災の後、24 市町が臨時災害放送局を立ち上げた。エフエム岩手は釜石市の要請により、岩手県釜石市の岩手県沿岸広域振興局にエフエム東京の技術支援で臨時災害放送局を立ち上げた。当初の放送はライフライン情報、各避難所の情報、生活情報。時間が経つにつれ、行政からのお知らせなどに内容が変化した。現在では、エフエム岩手が釜石市から臨時災害放送局の運営を請け負い、地域情報はもちろんのこと、衛星配信番組を織り交ぜながら、毎日4時間の生放送を厚生労働省の緊急雇用事業で実施している。コミュニティ放送局への移行を考えているが、資金面が最大の障害となっている。

本調査研究のラジオ番組タイトルは対象エリアの岩手県久慈市と野田村の地名から「くじなのだ」とした。

【地域情報の充実にに向けた県域ラジオ放送事業者と市町村の連携に関する検討会】

本調査研究を円滑に推進するため、「地域情報の充実にに向けた県域ラジオ放送事業者と市町村の連携に関する検討会」を設置した。

要 綱

1 名 称

本調査検討会は、「地域情報の充実にに向けた県域ラジオ放送事業者と市町村の連携に関する検討会」（以下「検討会」という。）と称する。

2 目 的

東日本大震災において、ラジオ放送は災害情報の提供をはじめとして国民が安心・安全に生活する上で大きな役割を果たした。一方で、送信所の防災対策の必要性、放送施設の老朽化、都市部や山間部での難聴、広告市場の縮小傾向等多岐にわたって課題が山積している。総務省では、こうした状況を踏まえ、今後とも放送が災害情報等を国民に適切に提供できるよう、放送ネットワークの強靱化策等について検討することを目的に、平成 25 年 2 月から「放送ネットワークの強靱化に関する検討会」を開催し、同年 7 月中間取りまとめが公表された。

本中間取りまとめでは、難聴対策、災害対策としてのラジオ送信所の整備、災害対策としてのバックアップ設備の整備等の送信ネットワークの強靱化、コミュニティ放送の普及促進や臨時災害放送局の開設の円滑化、経営基盤の強靱化、自治体との連携強化のほか、特定の地域を対象にしたラジオ強靱化に向けたモデル事業を国も支援する形で実施するよう提言があった。本提言を受けて、総務省は平成 25 年度補正予算において、ラジオ強靱化に資するため、地域情報の充実にに向けた県域ラジオ放送事業者と市町村の連携について検討を行い、全国展開に向けた課題や提言を取りまとめることを目的とする調査研究の請負を公告し、平成 26 年 10 月 6 日に株式会社エフエム岩手がこれを受託した。これにより、コミュニティ放送局を必要としながらも運用負担の問題で実現できない地域において、ラジオ強靱化に資するため、地域情報の充実にに向けた県域ラジオ放送事業者と市町村の連携について検討を行い、全国展開に向けた課題や提言を取りまとめることを目的とする調査研究を実施する。

3 調査検討事項

- (1) 地域情報番組の充実方策の検討
- (2) よりきめ細かな災害放送の実施体制の検討
- (3) 住民アンケートの実施
- (4) 前項(1)から(3)の結果を踏まえた、検討会目的に照らした報告書の取りまとめ
- (5) その他関連事項

4 構 成

- (1) 検討会は、検討会運営主体（株式会社エフエム岩手）が委嘱する委員により構成する。
- (2) 座長は、検討会構成員が互選した者とする。

5 運 営

- (1) 検討会は、座長が開催し、主宰する。
- (2) 座長は、必要に応じて関係者を招聘することができる。
- (3) 座長は、検討会による調査研究の詳細検討のため、下部組織にワーキンググループの設置を命ずることができる。
- (4) ワーキンググループの構成員は、座長の指名を受けた者とし、ワーキンググループにはワーキンググループ構成員が互選した主査を置く。
- (5) ワーキンググループ主査は、座長の補佐を行う。
- (6) その他、運営に関する事項は座長が定める。

6 開催期間

第1回検討会開催の日から平成27年3月30日までとする。

7 事務局

検討会の事務局は、株式会社エフエム岩手に置く。

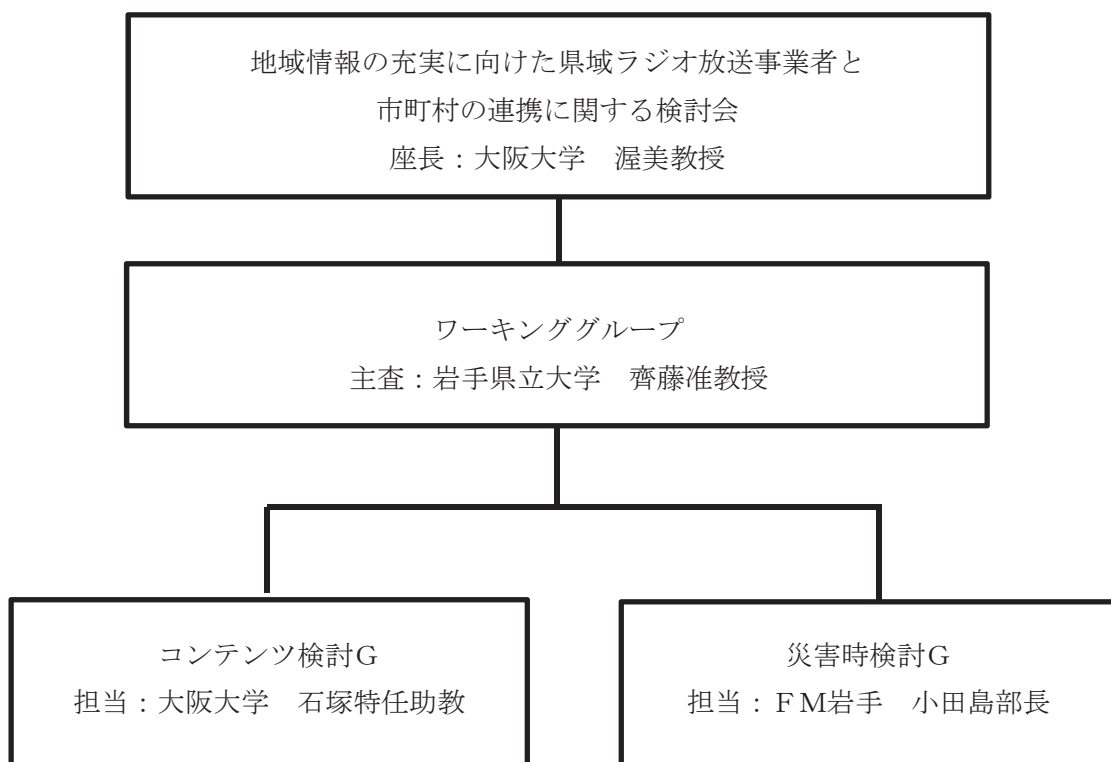
検討会構成員名簿

団体名	役 職	氏 名
国立大学法人大阪大学	大学院教授	アツミ トモヒデ 渥美 公秀
公立大学法人岩手県立大学	准教授	サイトウ ヨシア 齊藤 義仰
国立大学法人大阪大学	特任助教	イシヅカ ユウコ 石塚 裕子
東北総合通信局	局長	タケウチ ヨシアキ 竹内 芳明
久慈市	市長	エンドウ ジョウジ 遠藤 譲一
野田村	村長	オダ ユウジ 小田 祐士
釜石市	市長	ノダ タケノリ 野田 武則
岩泉町	町長	ダテ カツミ 伊達 勝身
特定非営利活動法人久慈広域観光協議会	専務理事	カンギョウ トシカズ 貫牛 利一
久慈駅前町内会	会長	タカマツ カズオ 高松 一男
オッフルエム	代表	タハラ ミハル 田原 美晴
電気興業株式会社	仙台支店支店長	カマダ ミキヒコ 鎌田 幹彦
株式会社ジャパンエフエムネットワーク	代表取締役社長	クロサカ オサム 黒坂 修
株式会社エフエム仙台	代表取締役社長	ニシカワ マモル 西川 守
株式会社エフエム岩手	代表取締役社長	ムラタ ノリマサ 村田 憲正

(構成員15名)

【調査研究会・ワーキンググループの設置】

本調査研究を円滑に進めるため、ワーキンググループを設置した。



■コンテンツ及び評価検討グループ（略称：コンテンツ検討G）

担当：大阪大学 特任助教 石塚 裕子

▶メンバー

久慈市総合政策部まちづくり振興課 広報統計グループ総括主査 水上恵一

野田村総務課主事 久慈美津紀

Willows 渋谷雄介（エフエム岩手 技術兼ディレクター）

エフエム岩手 販促企画室長 舘澤徳寿

▶オブザーバー

久慈青年会議所 OB 鹿糠紀章

株式会社のだむら 佐々木陵太（のだむラジヲ開局準備会）

■平時災害時の放送体制検討グループ（略称：災害時検討G）

担当：エフエム岩手 放送部長 小田島 大

▶メンバー

久慈市総務部消防防災課主任 神崎夏樹

野田村総務部庶務財政班主任 坂本良太

▶オブザーバー

電気興業株式会社

株式会社ジャパンエフエムネットワーク

株式会社エフエム仙台

1. 地域情報番組の充実方策の検討

①地域情報のうち市町村が提供することができる範囲、市町村がラジオ放送（県域放送等）により提供することができる範囲。

下図は本調査研究でラジオ番組に出演した団体をまとめたものである。市町村が提供できる情報は公的情報及び市町村が把握しているイベント情報が主であり、放送地域が限定される中継局放送においては身近な話題や情報が地域住民から数多く提供された。特に野田村に関しては、のだむラジオ開局準備会及び大阪大学の協力により「地域活動」「地域資源」「地域文化」「行政」とバランスよく情報を得ることができた。

	久慈市	野田村
地域活動	成人式実行委員会	のだむラジオ開局準備会
	平庭山荘	大阪大学野田村サテライト
	海女クラブ	保育所
	ブラジリアン柔術	読み聞かせサークル
	久慈市商工会議所	だらすこ工房
		コールわさらび
		のだ吹奏楽団
		食生活推進協議会
地域資源	高橋洋品店	荒海ホタテ団
	ササキ時計装飾店	ワカメ生産者
	ローゼット洋菓子店	シイタケ生産者
	洋風居酒屋「レフリー」	
	久慈まめぶ部屋	
地域文化	巽山稲荷神社	野田村歴史の会
		野田村方言コーナー
		もなみ保存会
行政	久慈市長	野田村長

② 県域ラジオ放送事業者と市町村が連携してラジオ放送向け地域情報番組を制作する体制。

本調査研究において、正確かつ迅速に番組を制作するため、フリーアナウンサーと制作ディレクターは調査研究対象地域である久慈市・野田村の住民ではなく、エフエム岩手で番組を手がけるスタッフを動員した。ただし、久慈市・野田村の行政担当者との連絡及び地域住民・企業とのリレーションを円滑にするため、アシスタントは調査研究対象地域から短期雇用した。

- ▶スタジオ 久慈市役所分室
- ▶番組パーソナリティ まつみたくや (エフエム岩手スタッフ・フリーアナウンサー)
- ▶番組アシスタント 式又真実 (久慈市在住・短期雇用スタッフ)
- ▶番組技術兼ディレクター 澁谷雄介 (エフエム岩手スタッフ)
- ▶番組統括プロデューサー 小田島大 (エフエム岩手スタッフ)



生放送風景①



生放送風景②



パーソナリティ：まつみたくや

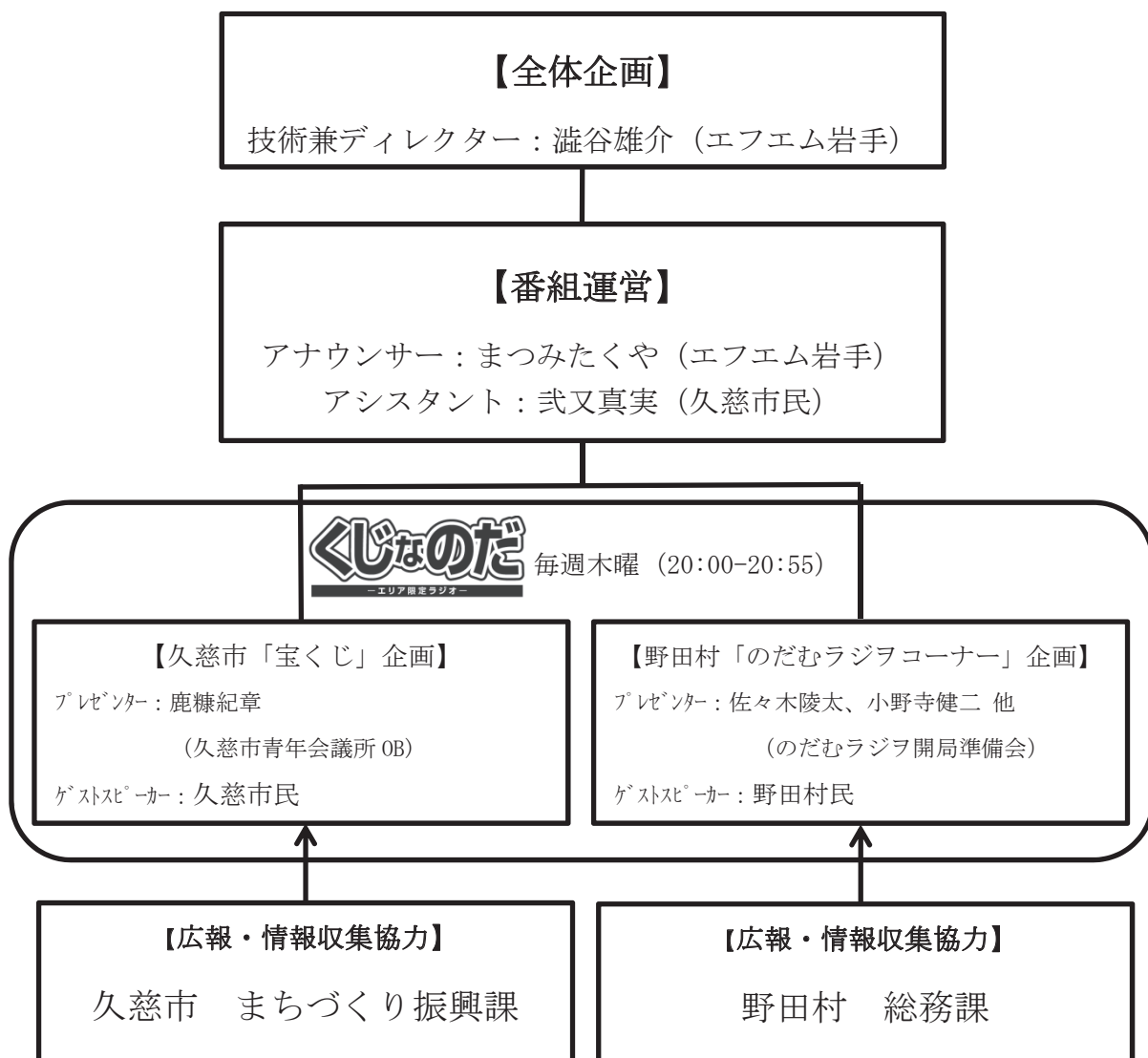


アシスタント：式又真実

③ラジオ放送向け地域情報番組の制作に地域の住民、団体が参画することができる体制。

地域住民による「情報発信」番組を実現するために、下図のような体制を構築した。エフエム岩手の技術兼制作ディレクター指導のもと、地域住民や地元コミュニティ研究会である「のだむラジオ開局準備会」と共に、自らが番組を企画し取材を行い、台本作成まで取り組んだ。また、当日の番組運営においても出演者に加えて、プレゼンターの役割も担った。久慈市及び野田村は番組に関して広報や地域情報収集という形で番組に参画した。

この体制は、県域 FM 局がコミュニティ放送（地域住民による「情報発信」番組）を実施する上でモデルとして有用であることが実証された。また、県域 FM 局と地域住民をつなぐコーディネート機能を地域（現場）に設置する必要性が確認された。



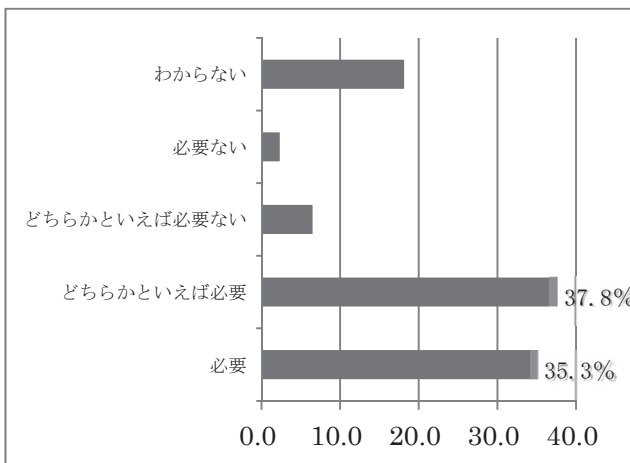
③-1 地域住民ニーズ調査

番組制作にあたり、調査研究対象地域である久慈市及び野田村の全世帯に対しアンケートを実施した。本項目では放送前のニーズ調査に関して記載する。詳細については、P15以降の「3 住民アンケートの実施」を参照。

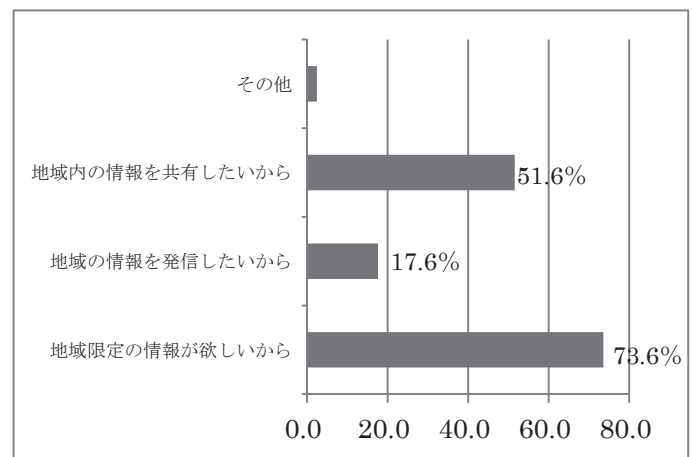
住民アンケートの「中継局放送が必要ですか？」との問いに関し（下図①参照）中継局放送が「必要」35.3%、「どちらかといえば必要」37.8%合わせて73.1%の方が中継局放送が必要であると回答した。さらに中継局放送が必要である理由（下図②参照）としては「地域限定の情報が欲しいから」73.6%、「地域内の情報を共有したいから」51.6%と続いた。また、中継局放送が必要だと感じる理由について自由回答をまとめた。（下図③参照）

これらのことから地域住民は、災害時における「情報発信機能（迅速安定・地域限定情報）」と「コミュニティ機能」を期待していることが分かった。

図① 中継局放送が必要ですか？



図② 中継局放送が必要である理由（複数回答）



図③ 中継局放送が必要だと感じる理由（自由回答）

求められている機能		災害時	平常時
情報発信機能	迅速安定した発信	<ul style="list-style-type: none"> ・防災無線が全く聞けないから。（60代男性、40代女性） ・防災無線が聞き取りにくいので、そういった情報ははっきり、しっかり聞きたい。（50代男性） ・テレビよりラジオのニュースが速いから。（30代男性） ・巨大災害時に絶対に必要である。（60代男性） 	<ul style="list-style-type: none"> ・FMは雑音が少ないから。（40代女性）
	地域限定情報	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時に地域限定の情報が得られると思う。（30代男性） 	<ul style="list-style-type: none"> ・最新のトレンドや県内各地の情報が欲しい。地域の専門局までは必要ない。でも、天気・交通情報・地元商店街の情報は欲しい。（30代女性） ・観光客が詳しい情報を知りたいと思うから。（20代女性）
コミュニティ機能		<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に協力し合える、助け合える。（50代女性） ・緊急時に地域限定の情報が得られると思う。（30代男性） ・災害時等を考えるとコミュニティ放送局を望む。ただし、民間経営には疑問。出資者が集まるか？運営母体は？（50代男性） 	
その他			<ul style="list-style-type: none"> ・あれば便利なのがあるのかも？（40代女性） ・広すぎる県土にも多様性があるべき。（40代男性）

③-2 ラジオ番組の放送内容について

放送内容は、地域住民への「情報提供」と地域住民による「情報発信」の2パターン設定した。

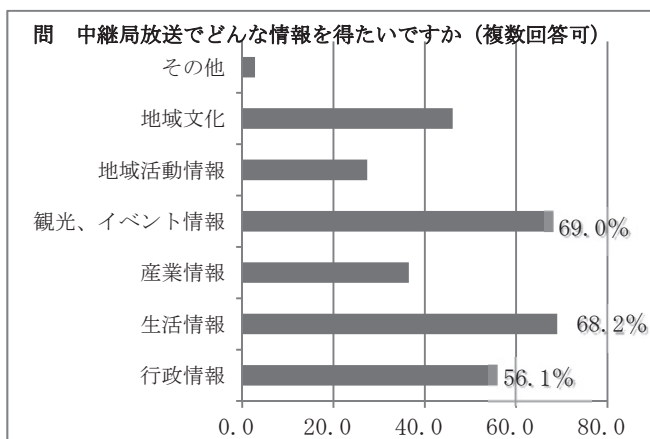
◆地域住民への「情報提供」番組

全戸アンケート調査から、「観光、イベント情報」「生活情報」「行政情報」へのニーズが高い（図①参照）ことが明らかになったため、5分～25分の番組ではこれらの情報提供番組として放送した。（図②参照）

◆地域住民による「情報発信」番組

自治体担当者、地元住民のヒアリング調査から、地域住民の様々な活動や仕事、地域文化に関する情報へのニーズが高いことが明らかになった。55分の生放送では地域の「人」にフォーカスを当てた番組として放送を試みた。その結果、多様な市民が情報の発信者となり、応援メッセージが届くなどリスナーからも好感触の反応が数多くあった。なお、番組の内容については別添①を参照。

図①



図②

	求められる情報の性質 (アンケート結果より)	対応番組
地域住民へ 情報提供	即時性	「くじなのだmedium」…15分、25分番組 「くじなのだmini」…5分番組
地域住民による 情報発信	地域固有性 双方向性	「くじなのだ」…55分番組 (固定曜日時間・原則生放送)

図② 放送スケジュール

日程	放送時間	番組名	日程	放送時間	番組名	日程	放送時間	番組名			
12月	4日 木	20:00～20:55	くじなのだ	1月	1日 木	20:00～20:55	くじなのだ	2月	2日 月	10:30～10:45	くじなのだmedium
	5日 金	14:45～14:55	くじなのだmini		4日 日	10:55～11:00	くじなのだmini		5日 木	20:00～20:55	くじなのだ
	11日 木	20:00～20:55	くじなのだ		8日 木	20:00～20:55	くじなのだ		12日 木	20:00～20:55	くじなのだ
	12日 金	11:50～11:55	くじなのだmini		11日 日	10:55～11:00	くじなのだmini		14日 土	19:30～19:55	くじなのだmedium
	18日 木	20:00～20:55	くじなのだ		15日 木	20:00～20:55	くじなのだ		19日 木	20:00～20:55	くじなのだ
	19日 金	11:50～11:55	くじなのだmini		19日 月	10:30～10:45	くじなのだmedium		21日 土	19:30～19:55	くじなのだmedium
	25日 木	20:00～20:55	くじなのだ		22日 木	20:00～20:55	くじなのだ		26日 木	20:00～20:55	くじなのだ
	26日 金	11:50～11:55	くじなのだmini		26日 月	10:30～10:45	くじなのだmedium		28日 土	11:00～11:55	くじなのだ
			29日 木	20:00～20:55	くじなのだ						

2. よりきめ細かな災害放送の実施体制の検討

①災害マニュアル及び放送の手順

エフエム岩手の非常災害放送マニュアルに沿って実施することとした。手順については別添②を参照。

【非常災害放送実施の判断基準】

非常災害放送とは、地震・津波・台風・火災・火山活動などの自然災害により、広く県民に被害が及ぶ恐れがある場合に通常の放送を中断して緊急放送を行うことを言い、以下の判断基準で割り込み放送を行う。

地震の場合

- ・岩手県内で、4以上の震度が観測された場所がある場合。

※震度4であっても、新幹線・高速道路等が一時運転を休止し点検を実施する場合があります。また、震源が浅い直下型地震で大きな被害が出ている可能性もあります。非常災害放送の対象とします。

津波の場合

- ・地震の震度に拘わらず、津波注意報・警報が発令された場合。

※遠隔地震（チリ沖等）による津波警報・注意報については、初期は通常の放送での対応としますが、予想到達時間の2時間前には放送体制を整え緊急対応します。

緊急地震速報が発報された場合

- ・自動で録音素材が放送されます。

※予報と異なり大きな地震が到達しなかった場合は、大きな揺れがなかった事のアナウンス（キャンセル）を放送します。

台風・大雨の場合

- ・1時間雨量50ミリ以上の予報が出されている場合。

※土砂崩れ、時間を置いて洪水で被害が出る可能性があります。事態によっては緊急放送の対象とします。

台風・暴風の場合

- ・陸地で瞬間最大風速25メートル以上の予報が出されている場合。
- ・竜巻警報が出されている場合。

※通常の放送で対応しますが、事態によっては非常災害放送の対象とします。

豪雪の場合

- ・24時間後までの予想積雪量80センチ以上が予想されている場合。

※道路・鉄道が通行出来なくなったり、特に湿った雪の場合、電線が雪の重みで切断されたりします。通常の放送で対応をしますが、事態によっては非常災害放送の対象とします。

避難勧告・避難指示：自然災害の規模如何に拘わらず発令された場合

②市町村との災害協定

本調査研究にあたり、久慈市及び野田村と「災害時における防災・緊急放送に関する覚書」を締結した。

災害時における防災・緊急放送に関する覚書

久慈市（以下、「甲」という。）と株式会社エフエム岩手（以下「乙」という。）は、災害時の防災・緊急情報及び防災に関する放送（以下「防災・緊急情報」という。）に関し、次のとおり覚書を交換する。

（目的）

第1条 この覚書は、岩手県久慈市で災害が発生した際、または、災害の発生の恐れがある時等の適切な時期に、地域住民へ迅速かつ正確に情報が伝わるよう、甲が乙に防災・緊急放送を委託することを目的とする。

（放送）

第2条 防災・緊急放送は、原則として甲が、防災・緊急情報を発表する毎に行うものとし、甲は乙に対して、防災・緊急情報をファックス等により提供する。

2 乙は、提供を受けた防災・緊急情報を防災放送に活用できるものとする。

（協議）

第3条 この覚書に記載がない事項又は覚書に疑義を生じた場合は、甲、乙が協議するものとする。

（有効期限）

第4条 この覚書の有効期限は、平成27年2月28日までとする。

この覚書の証として、本書2部を作成し、甲、乙押印のうえ、各自その1部を保有するものとする。

平成26年12月22日

甲 岩手県久慈市
市長

遠藤 譲一

乙 株式会社エフエム岩手
代表取締役社長

村田 憲正

災害時における防災・緊急放送に関する覚書

野田村（以下、「甲」という。）と株式会社エフエム岩手（以下「乙」という。）は、災害時の防災・緊急情報及び防災に関する放送（以下「防災・緊急情報」という。）に関し、次のとおり覚書を交換する。

（目的）

第1条 この覚書は、岩手県野田村で災害が発生した際、または、災害の発生の恐れがある時等の適切な時期に、地域住民へ迅速かつ正確に情報が伝わるよう、甲が乙に防災・緊急放送を委託することを目的とする。

（放送）

第2条 防災・緊急放送は、原則として甲が、防災・緊急情報を発表する毎に行うものとし、甲は乙に対して、防災・緊急情報をファックス等により提供する。

2 乙は、提供を受けた防災・緊急情報を防災放送に活用できるものとする。

（協議）

第3条 この覚書に記載がない事項又は覚書に疑義を生じた場合は、甲、乙が協議するものとする。

（有効期限）

第4条 この覚書の有効期限は、平成27年2月28日までとする。

この覚書の証として、本書2部を作成し、甲、乙押印のうえ、各自その1部を保有するものとする。

平成26年12月22日

甲 野田村
村長

小田 祐士

乙 株式会社エフエム岩手
代表取締役社長

村田 憲正

③実施体制及び災害放送の要請手順

別添②を参照。

④災害時想定訓練

緊急放送の訓練は、久慈市及び野田村の防災担当者からの訓練 FAX を受け、エフエム岩手が放送実施の有無を電話連絡することで実施した。本調査研究の対象ではないが、「防災ラジオ」を久慈市及び野田村に 8 台ずつ配置し、中継局放送の訓練として起動信号の試験放送を 3 回実施した。結果は下記のとおり。

放送日時	結果（久慈市）	結果（野田村）
2月2日（月） 10:30～10:45	起動した 7/8	起動した 8/8
	起動しなかった 1/8	起動しなかった 0/8
2月6日（金） 11:50～11:55	起動した 6/8	起動した 8/8
	起動しなかった 2/8	起動しなかった 0/8
2月8日（日） 10:55～11:00	起動した 7/8	起動した 8/8
	起動しなかった 1/8	起動しなかった 0/8

久慈市における「防災ラジオ」が起動しなかった結果については、エフエム岩手の受信可能エリアと同様の結果である。受信可能エリアでは確実に起動した。

平成 27 年 2 月 17 日朝発令された「津波注意報」により、エフエム岩手（県域放送）は避難の呼びかけ、避難指示・勧告の情報、津波到達情報、鉄道運転見合わせ情報、久慈・岩泉・釜石の各支局から現地の様子を放送した。

エフエム岩手久慈支局は、中継局放送の緊急放送を実施するため移動、市役所分庁舎の中継局放送のスタジオから以下の放送を実施した。

放送時間	放送内容
10:01～10:07	津波注意報継続中、水門閉鎖中、久慈市及び野田村の各避難所毎の避難者数 久慈港及び野田港の津波観測状況、鉄道運行情報、バス運休情報 水門外への避難指示、避難準備発令中 ※海岸には近づかないよう注意を呼びかけた
10:15～10:20	上記同様
10:23～10:24	津波情報解除、海面の変動に引き続き注意を訴え放送終了

【放送体制】

話し手…八重櫻真一（エフエム岩手久慈支局） 技術兼ディレクター…吉田章（エフエム岩手久慈支局）
情報収集…武又真実（中継局放送アシスタント）

3. 住民アンケートの実施

本調査研究において、久慈市及び野田村住民に対し全戸アンケート中継局放送の開始前と開始後の2回実施した。

【放送事前アンケート】

- 実施期間 2014年11月15日～11月30日
- 対象数 久慈市15,600世帯 / 野田村1,620世帯
- 回収方法 郵送による回収
- 回答数 有効回答数 1,143

【放送事後アンケート】

- 実施期間 2015年2月15日～3月8日
- 対象数 久慈市15,600世帯 / 野田村1,620世帯
- 回収方法 郵送による回収
- 回答数 有効回答数 663

	日頃ラジオを聞きますか			
	毎日	週2,3回	月数回	全く聞かない
放送前	59.3	17.9	13.6	9.2
放送後	55.3	13.5	18.4	12.8

放送後にラジオを聞かないという方が3.6パーセント上昇した。しかし、調査対象地域住民のラジオの聴取傾向おおむね高いことが分かった。

	ラジオを聞く方に質問です。聞く場所はどこですか（複数回答可）					
	車の中	職場	家	携帯ラジオ	スマホ・携帯電話	その他
放送前	64.1	10.2	49.2	16.0	3.0	1.5
放送後	71.1	11.9	53.4	13.1	1.6	1.9

車の中でラジオを聞く方が圧倒的に多い。これは公共交通機関の整備が未発達であり、地域住民の移動手段として自家用車を使用する地域であることが要因であると考えられる。

	ラジオを聞く時間帯はどこですか？（複数回答可）							
	5～7時	7～9時	9～12時	12～14時	14～16時	16～19時	19～22時	22～24時
放送前	30.6	33.8	42.5	29.1	30.6	30.5	15.5	11.1
放送後	28.7	30.8	45.0	29.2	33.1	30.3	19.6	9.5

19時～22時にラジオを聞くという方が4.1パーセント上昇した。本調査研究のラジオ番組を毎週木曜日20時～20時55分のプログラムで実施したことが影響したと考えられる。

	「くじ〜くじ〜く」を		「のだむラジオ」を		「くじなのだ」を	
	知っている	知らない	知っている	知らない	知っている	知らない
放送前	55.3	44.7	15.7	84.3	-	-
放送後	63.7	36.3	34.2	65.8	50.5	49.5

久慈市から毎週放送しているエフエム岩手久慈支局制作番組「くじ〜くじ〜く」（厚生労働省緊急雇用創出事業）、及び野田村でイベント時に試行しているエフエム放送「のだむラジオ」の知名度がそれぞれ上昇した。特に「のだむラジオ」に関しては18.5パーセント上昇した。また、中継局放送番組「くじなのだ」の知名度が半数を超えた。久慈市及び野田村の広報活動や県域放送局であるエフエム岩手の広報が寄与したと考えられる。

	日頃生活する上で必要な情報をどのように得ていますか？（複数回答可）									
	市（村）の広報誌	家族友人知人との会話	SNS	Eメール	ラジオ	テレビ	新聞雑誌	webページ	のんちゃんネット	その他
放送前	74.0	45.4	5.5	4.3	52.6	68.0	65.8	16.4	14.3	1.7
放送後	71.6	46.4	6.4	5.3	47.8	64.3	61.8	18.2	15.4	2.3

地域住民が情報源として使用しているのは、市（村）の広報、テレビ、新聞、ラジオの順であった。特筆すべきは市（村）の広報が70パーセントを越えた点である。

※のんちゃんネット…野田村役場と各世帯を光ファイバーでつなぎ、村の情報などを配信する事業。

	東日本大震災時に有効であったツール（複数回答可）								
	市（村）の防災無線	家族友人知人との会話	SNS	Eメール	ラジオ	テレビ	新聞雑誌	webページ	その他
放送前	49.9	34.8	3.3	5.2	81.5	45.6	36.1	5.4	1.5
放送後	53.3	36.9	3.8	5.0	75.4	43.8	34.7	5.8	1.5

東日本大震災時に必要であったツールはラジオであったことがあらためて証明された。

	中継局放送が必要だと思いますか				
	必要	どちらかといえば必要	どちらかといえば必要ない	必要ない	分からない
放送前	35.3	37.8	6.5	2.3	18.1
放送後	26.3	38.9	5.8	2.8	26.2

2回のアンケートで「必要」「どちらかといえば必要」と答えた方が半数を超えた。

	中継局放送が必要だと感じる理由（複数回答可）			
	地域限定の情報が欲しい	地域の情報を発信したい	地域内の情報を共有したい	その他
放送前	73.6	17.6	51.6	2.4
放送後	72.1	22.0	47.5	1.9

地域住民は中継局放送に地域限定情報を欲していることが分かった。

	中継局放送で得たい、または発信したい、共有したい情報（複数回答可）						
	行政情報	生活情報	産業情報	観光、イベント情報	地域活動情報	地域文化	その他
放送前	56.1	69.0	36.5	68.2	27.4	46.1	2.8
放送後	45.8	62.5	37.7	69.9	27.4	38.2	2.1

地域住民は「観光、イベント情報」及び「生活情報」を特に欲している。

	中継局放送を運営するために、貴方の世帯は年間いくらまでなら負担してもいいと思いますか？						
	300円	500円	1,000円	3,000円	10,000円	10,000円以上	支払わない
放送前	16.8	22.1	32.8	9.1	0.6	0.2	18.3
放送後	18.6	21.5	28.7	8.0	1.2	0.5	21.5

※あくまでも事業の効果を評価するための仮定であり、実際にこのような仕組みを考えているわけではない。中継局放送を金銭的な負担をしてまでも欲するという方が約8割に及んだ。

	中継局放送「くじなのだ」を聞いたことがありますか？				
	毎週	時々	2,3回	1回はある	全く聞いたことが無い
放送後	4.9	10.2	8.2	11.0	65.7

中継局放送を1度でも聞いたことのある方が3割を超えた。

	「くじなのだ」を1度でも聞いたことがある方に質問です 中継局放送「くじなのだ」は面白いと思いますか？				
	強くそう思う	そう思う	どちらでもない	そう思わない	全く思わない
放送後	13.5	46.8	35.4	3.0	1.3

中継局放送のラジオ番組は過半数の方に支持をされた。

	「くじなのだ」を1度でも聞いたことがある方に質問です 中継局放送「くじなのだ」をこれからも聞きたいですか？				
	強くそう思う	そう思う	どちらでもない	そう思わない	全く思わない
放送後	16.6	52.3	27.0	2.9	1.2

これからも聞きたいという住民が7割弱であった。本調査研究のラジオ番組が支持されたといえる。

【地域情報について】

	地域の情報を知りたい					地域の情報を十分に入手できている				
	全く思わない	思わない	どちらでもない	そう思う	強くそう思う	全く思わない	思わない	どちらでもない	そう思う	強くそう思う
放送前	0.5	1.6	9.7	69.2	19.0	3.8	40.2	31.4	23.3	1.3
放送後	1.1	2.2	10.5	67.5	18.7	2.8	33.9	32.0	28.9	2.4

	地域の情報について、近隣の人と話題にする					地域の情報は住民自らが発信すべきである				
	全く思わない	思わない	どちらでもない	そう思う	強くそう思う	全く思わない	思わない	どちらでもない	そう思う	強くそう思う
放送前	5.6	15.6	31.5	44.8	2.5	2.6	10.5	36.8	45.2	4.9
放送後	4.1	11.3	30.7	49.7	4.2	0.5	9.1	33.3	48.9	8.2

	地域の情報は住民が発信できる				
	全く思わない	思わない	どちらでもない	そう思う	強くそう思う
放送前	3.0	14.8	35.3	42.9	4.0
放送後	2.1	11.7	33.5	46.8	5.9

地域住民は地域の情報を知りたいと強く願っている。しかし、情報は十分に入手できていない。中継局放送で住民自らが発信者となれる可能性を見出したことで「地域の情報は住民が発信できる」と答えた方が放送前では46.9パーセントであったが、放送後には52.7パーセントとなり、5.8パーセント上昇した。

【地域貢献】

	地域でのボランティアなど社会活動に参加したい					住みよい街づくりのために自分から積極的に活動したい				
	全く思わない	思わない	どちらでもない	そう思う	強くそう思う	全く思わない	思わない	どちらでもない	そう思う	強くそう思う
放送前	4.6	16.0	39.9	35.1	4.4	3.5	12.9	43.7	34.9	5.0
放送後	3.3	14.8	41.7	34.9	5.3	2.5	14.6	43.1	34.0	5.8

	地域のみならずと何かをすることで、自分の生活の豊かさを求めたい				
	全く思わない	思わない	どちらでもない	そう思う	強くそう思う
放送前	3.3	12.1	33.6	44.7	6.3
放送後	2.8	13.0	32.6	45.8	5.8

本項目に関しては放送前と放送後に大きな差はなかった。地域貢献をしたいと思う住民は4割を超えている。

【地域社会への参画意識】

	地域での問題の解決には、地域住民と行政が対等な関係を気づくことが重要である					地域をよくするためには、住民がすることに行政が積極的に協力すべき				
	全く思わない	思わない	どちらでもない	そう思う	強くそう思う	全く思わない	思わない	どちらでもない	そう思う	強くそう思う
放送前	0.8	3.9	13.1	64.6	17.6	0.5	3.4	17.5	58.5	20.1
放送後	0.3	4.4	15.5	60.4	19.4	0.6	3.8	17.7	54.7	23.2

	地域をよくするためには、住民自らが決定することが重要				
	全く思わない	思わない	どちらでもない	そう思う	強くそう思う
放送前	0.7	5.8	26.8	53.8	12.9
放送後	0.5	6.1	26.9	53.6	12.9

地域の問題解決には地域住民と行政が対等な関係を築くべきだと考えている方が約8割であった。地域をよくするために住民主体でかつ、住民自らが決定したいという方もそれぞれ約8割であった。

【地域社会への参画意識②】

	自分の住んでいる地域で住民運動がおきても、できれば関わりたくない					地域をよくするための活動は、熱心な人たちに任せておけばよい				
	全く思わない	思わない	どちらでもない	そう思う	強くそう思う	全く思わない	思わない	どちらでもない	そう思う	強くそう思う
放送前	5.1	25.8	48.4	16.7	4.0	6.7	43.3	33.2	14.6	2.2
放送後	5.9	27.9	43.9	16.7	5.6	8.0	40.3	32.7	16.7	2.3

	地域での環境整備は行政に任せておけばよい				
	全く思わない	思わない	どちらでもない	そう思う	強くそう思う
放送前	10.9	54.0	25.2	8.6	1.3
放送後	12.7	52.3	23.6	9.7	1.7

2回のアンケートにおいて大きな差は出なかった。住民運動には関心が無いものの、地域のことに關して行政や他人任せにするべきではないという結果であった。

【郷土愛】

	今住んでいる地域に、誇りと愛着を感じる					この土地にたまたま生活しているが、さして関心や愛着はない				
	全く思わない	思わない	どちらでもない	そう思う	強くそう思う	全く思わない	思わない	どちらでもない	そう思う	強くそう思う
放送前	3.2	10.0	30.0	46.7	10.1	15.4	39.0	28.1	14.3	3.2
放送後	1.6	7.8	30.3	47.4	12.9	18.3	40.2	27.6	11.4	2.5

	人からこの地域の悪口を言われたら、自分の悪口を言われたような気になる				
	全く思わない	思わない	どちらでもない	そう思う	強くそう思う
放送前	4.5	15.0	26.8	44.3	9.4
放送後	3.7	14.6	23.1	47.2	11.4

住んでいる地域に愛着や関心を持っている方が5割を超えた。しかし、どちらでもないと答えた方が3割を数えた。

【属性】

	性別	
	男性	女性
放送前	51.1	48.9
放送後	51.8	48.2

2回のアンケート調査の回答者は男女差がほとんどなかった。

	年齢						
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
放送前	0.6	2.3	7.9	13.8	24.6	27.3	23.5
放送後	1.5	1.5	8.0	14.7	22.6	30.3	21.4

	職業					
	会社員・公務員	自営業	パート・アルバイト	主婦・家事専業・退職	学生	その他
放送前	27.8	14.2	10.2	31.4	0.4	16.0
放送後	28.7	14.1	10.6	30.3	1.5	14.8

	家族構成				
	単身	夫婦のみ	二世帯	三世帯	その他
放送前	16.6	32.2	36.1	9.0	6.2
放送後	15.7	30.0	37.0	10.6	6.6

	居住地域	
	久慈市	野田村
放送前	80.5	19.5
放送後	74.9	25.1

	居住年数					
	3年未満	3～5年	6～10年	11～20年	21～30年	31年以上
放送前	7.7	6.6	5.8	12.5	13.2	54.2
放送後	8.0	5.6	5.4	9.0	16.4	55.7

4. 中継局放送の検証

①中継局放送を活用したコミュニティ放送の実証

本調査研究を通じて、中継局放送を活用することで地域の個性を活かしたコミュニティ放送が可能であることが実証された。コミュニティ放送は、地域の人々を元気にし、地域コミュニティの活性化につながり、地域アイデンティティの再確認と地域への愛着心の醸成に寄与することが明らかになった。

②県域放送局による住民参画のコミュニティ放送モデルの提案

県域放送局にとって、限定されたエリアの多様な住民に直接働きかけることは困難であり、エフエム岩手と住民との間を媒介する機能をもつ団体・個人の存在が要請される。久慈市、野田村には、そうした団体・個人が存在し、その方々と緊密な連携をとれたことが本調査研究の成果を生み出した。本調査研究で試行した放送体制ならびに住民参画は、県域放送局がコミュニティ放送を実施する場合のひとつのモデルとして有用であることが明らかになった。

③中継局放送による臨時災害放送局機能の実証

2月17日朝発令の「津波注意報」に対し、事前に久慈市、野田村と結んだ「災害時における防災・緊急放送に関する覚書」に基き、別事業で現地に常駐しているスタッフの協力により迅速に対応できた。災害時に中継局放送が臨時災害放送局機能を果たすことを実証できた。ただし、野田村に関しては、行政情報を流したにすぎず、本調査研究が目指した住民参画の成果と言い切ることは困難である。

これを機に、ラジオ番組の制作・放送などをめぐって平常時からエフエム岩手と多様かつ緊密な連携をとって活動している地元の住民との関係を維持し深めることが肝要である。

5. 中継局放送の課題

①地域の活性化に寄与する番組制作環境の構築

地域情報を発信すれば地域が活性化するわけではない。地域住民同士が取材や出演を通じて互いの活動を知り、その意義を再確認する過程そのものがコミュニティを活性化し、地域の活性化に繋がる。多様な地域住民が主体的に参画できる番組づくりを可能にするための人材育成（ソフト）や環境（ハード）を整える必要がある。

②地域住民によるコーディネート機能の育成

コミュニティ放送において地域住民は単なる情報提供者ではなく、地域住民自らが情報発信のコーディネート機能を担うことが重要である。地域にとって必要な情報、住民を元気にする情報を、地域住民の視点で収集、取捨選択する機能が求められる。この機能を地域住民が担うことで、災害時の円滑な情報提供を可能にし、平常時の地域コミュニティの活性化に繋がると考えられる。

③県域放送局が持つ全国発信機能の活用した地方創生

県域放送局が持つ全国発信機能を活用すれば、本事業で試行した住民参画によるコミュニティ放送を全国に発信できる、つまり、地方の住民自らが全国に向けて情報発信できるツールを提供することができる。地方には、あと一步で十分な発信ができる住民や、機会さえあれば地域の活性化（や災害復興）へとつなげていく力を有する住民が多様に存在し、活躍の場の提供が望まれている。地方の住民に情報発信ツールを提供することは、地方創生がめざす、住民自らによる持続可能な地域づくりへの起爆剤となる可能性を秘めている。

（→参考資料①）

④臨時災害放送局機能の充実化に向けた備え

災害時には、発災直後に特定地域の現状を全国に発信できる（救援物資などの要請など）。さらに復興期においては、行政だけでなく住民、市民活動団体など自らが取り組みを全国に発信することで、全国からさまざまな支援や情報を直接得る機会を持つことができる。災害時にコミュニティ放送ならではの適切な情報提供を実現していくためには、「平時にできないこと」は「緊急時にもできないこと」を考慮し、週に何回か通常放送をできる体制づくりが必要である。これらの実現に向けては、運営コストや人材育成など持続可能な仕組みをつくることが課題である。

別添① 中継局放送（くじなのだ）放送内容

日程	放送時間	コーナー	ゲスト	内容
4日 木	20:00～20:55	のだむらじろ	「のだむらじろ開局準備会」の皆さん。	野田村コミュニティラジオ開局へ向けての取り組み。
		宝くじ	「高橋洋服店」高橋歩さん	お店の情報を紹介。
5日 金	14:45～14:55	mini	・週末イベント情報、生活情報、メッセージ募集	
11日 木	20:00～20:55	のだむらじろ	「大阪大学」渥美公秀先生	大阪大学野田村サテライトセミナー「荒海ホタテ」について
		宝くじ	「ササキ時計装飾店」佐々木佑広さん	お店の情報。「三陸キッドドリームス」について。
12日 金	11:50～11:55	mini	「久慈郵便局」佐々木満局長	「年賀状引き受けセレモニー」について。
18日 木	20:00～20:55	のだむらじろ	「野田村役場」久慈美津紀さん 「野田村歴史の会」吉田照夫さん	村内保育園の子供たちが歌った歌を収録で紹介 野田村の方言を解説
		宝くじ	「ローゼット」 嵯峨真穂さん、谷地なつ実さん	お勧め商品の紹介。クリスマスケーキの予約
19日 金	11:50～11:55	MINI	・週末・祝日のイベント情報。二子朝市、クリスマスカード作り、北三陸くじ冬の市 もぐらんびあまちなかの夜の水族館などを紹介	
25日 木	20:00～20:55	のだむらじろ	合唱サークル「コールわさらび」 「野田吹奏楽団」の皆さん	それぞれの活動について 吉田さんによる野田方言の解説
		宝くじ	「巽山稲荷神社」幡磨豊和さん	神社あれこれ、そして神社の仕事について紹介
26日 金	11:50～11:55	mini	・週末イベント情報。フットボール小学校交流大会、UNITYライブ 土風館のゆくゆく年お振舞について紹介	

12月

日程		放送時間	コーナー	ゲスト	内容
1日	木	20:00～20:55	のだむラジヲ	小田祐士 野田村長	幼い頃のお話など
			宝くじ	遠藤譲一 久慈市長	新しくなった「海女センター」について 「もぐらんびあみ水族館」の今後について
4日	日	10:55～11:00	mini	・カスカ印房・清章堂の初売り、アトリエ遊の初売り、もぐらんびあみ水族館の新春特別企画を紹介	冬休みお薦め本展
8日	木	20:00～20:55	のだむラジヲ	「野田方言」 吉田照夫さん、北田春光さん	野田の歴史について
			宝くじ	新成人5名	11日に行われる成人式について
11日	日	10:55～11:00	mini	・補聴器相談、野田村と久慈市の成人式について、野田村の小正月について 久慈産「山ぶどうチューマイ」新発売の話題を紹介	
15日	木	20:00～20:55	のだむラジヲ	「なもみ保存会」八幡重光さん	小正月行事「なもみ」について紹介
			宝くじ	「平庭山荘」館長 下館満吉さん	平庭高原の魅力について紹介
19日	月	10:30～10:45	medium	「自衛隊二戸地域事務所」澤口勝弘さん 「久慈連絡所」菊池隆仁さん	自衛官についてと候補生募集について
22日	木	20:00～20:55	のだむラジヲ	「ワカメ生産者」橋場敏夫さん 「しいたけ生産者」小野紀行さん	野田村特産わかめ・しいたけについて
			宝くじ	「海女クラブ」のみなさん	地元アイドルの活動について
26日	月	10:30～10:45	medium	・週末イベント情報、生活情報、野田村さんどう市、全国放送の案内。	
29日	木	20:00～20:55	のだむラジヲ	大澤継弥さん	「読み聞かせサークルあっぷっぷ」 「木工工房だらすこ」の活動について
			宝くじ	鹿糠知樹さん	ブラジリアン柔術と総合格闘技について

日程	放送時間	コーナー	ゲスト	内容
2日	10:30～10:45	medium	「株式会社まるこ」 小泉好明さん	お店の特徴を紹介 売り出しの宣伝
		のだむラジヲ	「食生活改善推進協議会」 熊谷やえこさん、大沢やすこさん、下畑優子さん	料理グランプリ受賞「減塩レシビ」の紹介 日々の活動
5日	20:00～20:55	宝くじ	洋風居酒屋「レフリー」、鉄板焼き「団家」 小倉徹也さん	お店のメニューの紹介や期間限定のランチ 飲み放題イベントの紹介
		のだむラジヲ	「チーム北リアス」 滙美先生、宮前良平さん 「写真を受け取った」 中野さん	震災で流された写真の返却活動のついて、 写真を取り戻された方々の様子などを紹介
12日	20:00～20:55	宝くじ	「久慈市商工会議所」 池一恵さん	はしご酒イベントの紹介
14日	19:30～19:55	medium	久慈市在住の小室好司さん	「久慈市民おらほーる劇場」について紹介
19日	20:00～20:55	のだむラジヲ	「野田村臨時職員」 下向里奈さん	女性視点からの野田村の魅力について
		宝くじ	久慈まめぶ部屋西横綱「ハッタギ」山 石渡範さん	久慈まめぶ部屋の活動について
2月				
・2月17日の津波注意報に伴う緊急放送対応について報告				
21日	19:30～19:55	medium	「久慈市在住詩人」 宇部京子さん	作詞活動について 久慈市・野田村で開催する「絵本コンサート」のお知らせ
26日	20:00～20:55	のだむラジヲ	「のだむラジヲ開局準備会」 佐々木陵太さん	野田村コミュニティラジオ開局へ向けての取り組み
		宝くじ	「オツフル・エム」 田原美晴さん	コミュニケーションアドバイザーのお仕事 久慈広域ラジオのお話
28日	11:00～11:55	のだむラジヲ	「のだむラジヲ開局準備会」 小野寺健二さん 「NPO久慈広域観光協議会」 貫牛利一さん	野田村コミュニティラジオ開局へ向けての取り組み
		宝くじ	「清草堂」 「カスカカ印刷」 鹿糠紀章さん	番組聞いたでリクスナー特典します

概要

1. 実施日時

2014年10月20日(月) 14時～15時30分

2. 実施場所

久慈市役所 特別会議室

3. 参加者

大阪大学大学院教授 渥美公秀

岩手県立大学準教授 齊藤義仰

大阪大学特任助教 石塚裕子

東北総合通信局放送部長 小川英一

久慈市市長 遠藤譲一

野田村長 小田祐二

釜石市広聴広報課課長 村上純幸

岩泉町行政情報室長 佐々木修二

NPO久慈広域観光協議会 貫牛利一

久慈駅町内会 高松一男

(株)JFN 取締役 戸田耕市

電気興業(株)仙台支店 岩淵貴久

(株)エフエム仙台常務取締役 畑中和俊

(株)エフエム岩手社長 村田憲正

4. 協議結果

①座長は大阪大学渥美教授にする

②調査フィールドは久慈市及び野田村とする

③ワーキンググループの設置

→10月26日(日)に実施することとした

④中継局放送のスケジュールを決定

→12月から2月末まで放送。3月中に報告書をまとめる

作業スケジュール

10月26日(日) 第1回ワーキンググループ

12月〇日～2月末 中継局放送を実施

3月末 報告書をまとめる

意見と対応

● 検討会第一回

● 開催日 2014年10月20日(月) 協議

意見 この地域でやっていただけてありがたい。自治体として協力します

意見 コミュニティ放送にかわるものができるのか?期待している。

意見 野田村にはのだむラジヲ開設準備会がある協力します。

意見 地域の観光にとってコミュニティ FMのような発信ツールは是非必要なので協力します。

意見 今回は調査対象地域に選ばれなかったが、地方にとって情報格差は課題である。本調査研究を見極めたい。

意見 中継局放送はどういった枠で放送するのですか

対応 基本は55分番組を実施。5分や10分のショートバージョンも考えています。

概要

1. 実施日時

2015年2月28日(土) 14時～16時00分

2. 実施場所

久慈市役所 特別会議室

3. 参加者

大坂大学大学院教授 渥美公秀
岩手県立大学準教授 齊藤義仰
大坂大学特任助教 石塚裕子
東北総合通信局放送部長 小川英一
久慈市市長 遠藤譲一
野田村長 小田祐二
釜石市広聴広報課課長 村上純幸
NPO久慈広域観光協議会 貫牛利一
(株)JFN取締役 戸田耕市
電気興業(株)仙台支店長 鎌田幹彦
(株)エフエム仙台常務取締役 畑中和俊
(株)エフエム岩手社長 村田憲正

4. 協議結果

- ①中継局放送は必要である
- ②中継局放送は地域を元気にする
- ③中継局放送の課題は資金などのハード面である

作業スケジュール

3月8日(日) 第二回アンケート締切 → 集計

3月末 報告書提出

● 検討会第二回

● 開催日 2015年2月28日（土）協議

意見 中継局放送はラジオの原風景であった。

意見 コミュニティ放送局を維持するのは難しい。皆さんの意見をいただきたい。

意見 ソフト（情報）はたくさんある。県域放送局の中継局を切り替えれば地域限定の諜報も発信できる。課題は運営費。

意見 知っている人が出演する番組は聞いていても楽しい。自分たちの放送局であるという気持ちにもなる。

意見 非常時に活躍するのはラジオ。最近若年層を中心にラジオ離れがある。普段から聞いてもらう努力も必要。

意見 ラジオ番組が終了することを知らない人もいる。続けて欲しいという声がたくさんある。

意見 調査期間中にたまたま津波注意報が発令された。それを聞いたというも沢山あるので続けて欲しい。

意見 野田村のことを知っているが隣の久慈市のことをあまり知らない。逆のパターンもある。今回をきっかけに隣の自治体のことをよく知ることができた。

意見 普段ラジオを聞かない人が、知っている人が出演するから聞いたという事があった。

意見 調査研究だけでなく、実施する際にはこの地域を選んでほしい。

概要

1. 実施日時

2014年10月26日(日) 9時～11時

2. 実施場所

岩手県立大学アイーナキャンパス

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1 いわて県民情報交流センター(アイーナ) 7F

3. 参加者

ワーキンググループ

主査：岩手県立大学准教授 齊藤義仰

コンテンツ及び評価検討グループ

担当：大阪大学特命助教 石塚裕子

メンバー：久慈市総合政策部まちづくり振興課広報統計グループ統括主査 水上恵一

エフエム岩手販促企画室長 舘澤徳寿

平時災害時の放送体制検討グループ

担当：エフエム岩手放送部長 小田島大

オブザーバー

地域情報の充実に向けた県域ラジオ事業者と市町村の連携に関する検討会

座長 大阪大学教授 渥美公秀

久慈市総合政策部まちづくり振興課

課長 長根英俊

株式会社エフエム岩手

代表取締役社長 村田憲正

4. 協議結果

①アンケートについて

- ・より多くの意見を住民から募集する為、久慈市及び野田村の全戸を対象としたアンケートをラジオ番組放送前と放送中2回実施することとした。
- ・アンケート2回目を放送中に実施するのは、放送終了後に集計すると報告書が間に合わなくなる可能性がある為。
- ・アンケート内容は次回のワーキンググループ（11/5）までにメーリングにあげて協議し、決定する。

②番組実施の体制について

- ・番組を迅速かつ正確に実施する為、番組パーソナリティをエフエム岩手番組スタッフまつみたくや氏、番組技術兼ディレクターとしてエフエム岩手スタッフ濫谷雄介を起用することとした。
- ・久慈市及び野田村の行政担当者や地域住民とのリレーションを円滑にするため、番組アシスタントは久慈市もしくは野田村在住の市民を短期で雇用することとした。

③番組内容

- ・久慈市と野田村のコーナーをそれぞれ実施することとした。
- ・情報をどのように収集するか、久慈市及び野田村の住民がプレゼンターとして番組内のコーナーを仕切る形をとることとした。
- ・どのような情報を取り入れるか、住民アンケートの結果を参考にすることとした。

④防災の訓練に関して

- ・番組内で3回防災ラジオの起動実験をすることとした。

⑤災害時の放送体制について

- ・エフエム岩手の災害対応マニュアルを元に連各体制をまとめることとした。
- ・久慈市及び野田村との防災協定に関する素案は次回のワーキンググループ（11/5）期限とした。

作業スケジュール

11月05日(水) 第2回ワーキンググループ
11月08日(土) 住民アンケート印刷データ校了
11月12日(水) 住民アンケート印刷終了～発送作業
11月13日(木) 住民アンケート、久慈市及び野田村へ15時までに納品
12月04日(木) 第1回放送スタート

意見と対応

● ワーキンググループ(第一回) ● 開催日 2014年10月26日(日) 協議

意見 アンケートの方法はどのように考えているか？

対応 行政職員や知人・友人などを介してアンケートを取りたい

意見 1,000以上のデータが無ければ信頼性に疑問符が付く。全戸でできないか。

対応 全戸アンケートを実施します。

意見 アンケートの内容が不備である。修正すべき。

対応 齊藤先生、石塚先生にお願いして、完成させます。

● ワーキンググループ(第一回) ● 開催日 2014年10月26日(日) 協議

意見 番組制作スタッフはどのように考えているのか？

対応 正確かつ迅速に番組を制作する為、番組パーソナリティと番組技術兼ディレクターは本社のスタッフを派遣する。ただし、アシスタントについては行政や地域住民・企業とのリレーションを考え、久慈市または野田村に住んでいる方を短期雇用する予定です。

意見 番組アシスタント候補者はいるのか？

対応 数名いる。できるだけ早く面接をし、雇用したい。

● ワーキンググループ第一回 ● 開催日 2014年10月26日(日) 協議

意見 番組の内容について、どのように考えているのか？

対応 中継局放送であり、基本的に久慈市と野田村の方たちに生出演してもらいたい。

意見 野田村にはのだむラジオ開設準備会があり、その方たちに協力してもらえばいいと思う。久慈市はどうか？

対応 青年会議所のOBで、インターネットラジオに取り組んでいた鹿糠氏に協力していただけるよう、交渉する。

- ワーキンググループ第一回
- 開催日 2014年10月26日（日）協議

意見 災害時の体制はどのように考えるのか？

対応 エフエム岩手の災害対応マニュアルもとにまとめます。久慈市及び野田村の防災協定の素案は次回の会合までにまとめます。

-
- ワーキンググループ第一回
 - 開催日 2014年10月26日（日）協議

意見 防災ラジオはどのように使用するのか？

対応 期間中、3回の放送で起動実験を行います。

概要

1. 実施日時

2014年11月5日(水) 17時～19時

2. 実施場所

岩手県立大学アイーナキャンパス

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1 いわて県民情報交流センター(アイーナ) 7F

3. 参加者

ワーキンググループ

主査：岩手県立大学準教授 齊藤義仰

コンテンツ及び評価検討グループ

担当：大阪大学特命助教 石塚裕子

メンバー：久慈市総合政策部まちづくり振興課広報統計グループ統括主査 水上恵一

エフエム岩手販促企画室長 舘澤徳寿

Willows 澁谷雄介(エフエム岩手・番組技術兼ディレクター)

平時災害時の放送体制検討グループ

担当：エフエム岩手放送部長 小田島大

オブザーバー

地域情報の充実に向けた県域ラジオ事業者と市町村の連携に関する検討会

座長 大坂大学教授 渥美公秀

4. 協議結果

①アンケートについて

- ・石塚先生の素案を元に印刷へ。メーリングでチェックして印刷。

②番組内容について

- ・久慈市と野田村の紹介をゲストプレゼンターが人を紹介することとした。
Ex.「本日のゲストは〇〇をやっている△△さんです。彼の経歴は・・・。」
- ・アンケートの結果を分析し放送に反映させることとした。
※中間結果を制作陣に伝える
- ・久慈市及び野田村に番組ディレクターが行き、放送体制及び連絡体制を確認することとした。

作業スケジュール

-
- 11月08日(土) 住民アンケート印刷データ校了
 - 11月12日(水) 住民アンケート印刷終了～発送作業
 - 11月13日(木) 住民アンケート、久慈市及び野田村へ15時までに納品
 - 11月13日(木) 現地調査
 - 11月26日(水) アンケート中間発表
 - 12月04日(木) 第1回放送スタート

意見と対応

-
- ワーキンググループ(第二回) ● 開催日 2014年11月5日(水) 協議

意見 アンケートを放送に反映させるため、中間発表してください。

対応 そのようにします。

-
- ワーキンググループ(第二回) ● 開催日 2014年11月5日(水) 協議

意見 プレゼンターがゲストを呼び込む形なのであれば、制作スタッフが一度現地に行った方がいい。

対応 11月13日に行きます。

概要

1. 実施日時

2014年12月12日（金）16時～19時

2. 実施場所

岩手県立大学アイーナキャンパス

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1 いわて県民情報交流センター（アイーナ）7F

3. 参加者

ワーキンググループ

主査：岩手県立大学準教授 齊藤義仰

コンテンツ及び評価検討グループ

担当：大阪大学特命助教 石塚裕子

メンバー：久慈市総合政策部まちづくり振興課広報統計グループ統括主査 水上恵一

エフエム岩手販促企画室長 舘澤徳寿

Willows 澁谷雄介（エフエム岩手・番組技術兼ディレクター）

平時災害時の放送体制検討グループ

担当：エフエム岩手放送部長 小田島大

オブザーバー

地域情報の充実に向けた県域ラジオ事業者と市町村の連携に関する検討会

座長 大坂大学教授 渥美公秀

4. 協議結果

①アンケートについて

- ・アンケートの報告。放送後のアンケートも実施することとした。

②番組内容について

- ・2回放送が終り、中々反響があることが分かった。これまでのとおり、「人」にスポットをあてることとし、地域情報をバランスよく発信することとした。
- ・元旦の放送は事前収録とし、久慈市長及び野田村長にご出演いただくこととした。
- ・最終回は2月28日（土）11時～11時55分の生放送とすることとした。

③その他

- ・次回のワーキンググループは未定。時間をとれないので、メーリングでその都度連絡を取り合うこととした。

作業スケジュール

2015年2月9日（月）第二回アンケートデータ校了～印刷

2015年2月13日（金）第二回アンケート 配布完了

2015年2月28日（土）中継局放送 最終回

2015年3月7日（土）第二回検討会予定日

2015年3月8日（日）第二回アンケート 締切

意見と対応

-
- ワーキンググループ（第三回） ● 開催日 2014年12月12日（金）協議

意見 アンケートはその精度を上げるために事後もやるべき。

対応 予算との兼ね合いもありますが、精度を上げるため実施します。

-
- ワーキンググループ（第三回） ● 開催日 2014年12月12日（水）協議

意見 新年一回目のゲストに久慈市長と野田村長をゲストに呼んではどうか。

対応 生放送の対応は難しいと思いますので、事前収録という形にして出演交渉します。